



年末年始のお知らせ

12月29日(日)～1月5日(日)
新年は6日(月)からです

西村クリニック便り 第120号

今年もいよいよ終わりに近づいてまいりました。今年一年を振り返りますといろいろな方々がお亡くなりになりました。中でも私にとって一番ショックな出来事はかつて一緒に仕事をした藤川先生が亡くなられた事です。今月はその藤川先生の思い出について書いてみたいと思います。私は29才で2度目の大学である奈良医大に入学しました。その時私と同級生であったのが藤川先生です。藤川先生は私より2才年下でしたが、2度目の大学という境遇が同じで、名前も「あきら」と同じで、しかも誕生日まで同じであり、そういう事から親しくなり共に奈良医大で学生生活を送りました。私も藤川先生もまだまだ若く体力もあり余っており、何かスポーツをしようかと始めたのが藤川先生が前の大学でやっていたハンドボールでした。当時奈良医大にはハンドボール部は無かったのですがそれなら自分達で作ればいけないかと仲間を集め、経験者の藤川先生が主将となりハンドボール部を結成しました。私は主務として他校との試合の調整に当たり関西医歯薬リーグに参加し、西日本医学部体育大会にも参加しそこそこの成績を納めました。勉強の方はと言いますと私と藤川先生は試験前などは時々勉強会と称して勉強が終わった後のビールを楽しみに、定期試験の過去問の解答をあれこれと作成したものでした。大学を卒業後私は藤川先生と共に奈良医大救急科に入局し、そこで当直に明け暮れる毎日をごしました。その当時はポケットベルを肌身離さず持ち歩き、寝る時は枕元に置いて眠り、緊急手術などでベルが鳴ったら直ちに大学病院に駆けつけるという生活をしておりました。ある日私と藤川先生が共に当直明けで午前中の仕事を済ませ帰宅途中鶴橋でビール付の昼食を摂っていた時、ポケットベルが鳴り2人共うんざりしながらまた大学病院に戻った事もありました。そして大学の救命センターで6年間の勤務の後、41才で私は藤川先生と共に大東市北楠の里町で「藤川西村クリニック」を開院しました。最初は必ずしも順調ではなく大東・四條畷医師会にも入会出来ず、健診も出来ないなどいろいろな困難がありましたが、交渉の末何とか健診業務を認めてもらえる様になるなど様々な苦勞をして医院を軌道に乗せました。私も藤川先生も健康になる為には健康な食物を食べるのが重要と考えており、私が田舎で育てた無農薬有機野菜をクリニックの別室で100円均一で販売するという事を始め、多くの患者さん達に共感してもらいました。そして10年前私は独立して新たに「西村クリニック」を開院し現在に至っております。藤川先生は体調の問題もあり昨年12月に仕事を辞めておられた様であります。そして今年の7月亡くなられたという訃報が私の元に届きました。学生時代共に勉学に励み、医師になってからも何年も一緒に仕事をした藤川先生が亡くなられたのはとても残念であり、謹んで藤川先生の御冥福をお祈りいたします。

院長 西村 章

発行元 西村クリニック
四條畷市楠公1-14-6
072-862-3001
ライン公式アカウント @365decem